

### 社寺建築及臺灣檜材の安價提供

(三年以上水蓄乾燥材)

當所は社寺建築改善の目的を以て臺灣總督府及内務、文部兩省の了解の下に臺灣檜材の安價提供及工事の設計又は監督の御依頼に應じ可申候間工事の大小に拘らず左記御便宜の個所へ御相談被下度候

追て設計規程並に目安表又は臺灣檜木質見本等御入用の向は御申越次第呈上仕候

(充分なる水蓄乾燥をなしたる檜材最も優良なるも水蓄不充十分なる檜材は干割狂ひ等の缺點多きものであります)

東京市四谷區霞ヶ岡町十六番地

(明治神宮外苑内日本青年館正門前)

#### 社 寺 工 務 所

(電話青山六〇二八番)

神奈川縣 鶴見町

#### 社 寺 工 務 所 鶴 見 支 所

福岡市外堅箱町馬出松原

#### 社 寺 工 務 所 福 岡 支 所

(電話二二三〇番)

大阪市西區市岡町七十九番地

#### 社 寺 工 務 所 大 阪 支 所

(電話西三三二四番)

#### 臺灣檜材六大大特價

- 一、耐久防蟻
- 二、蝕害絶無
- 三、香氣清楚
- 四、木質堅緻
- 五、理整然木
- 六、木高雅色

### 次 目

立正安國論と立正觀鈔	本	多	日	生
日本國民としての自覺	平	松	市	藏
菩薩行に就て	本	多	日	生
世界民族競争に對する國民の覺悟	井	上	一	次
聖訓摘要	本	多	日	生
記事	.....	.....	.....	.....

第三十二號 二月

一冊	金貳拾錢	送料共	金貳拾錢
一冊	金壹圓貳拾錢	送料共	金壹圓貳拾錢
一冊	金貳圓貳拾錢	送料共	金貳圓貳拾錢
一冊	金貳圓貳拾錢	送料共	金貳圓貳拾錢

表紙	一頁	金貳拾錢
表紙	一頁	金貳拾錢
表紙	一頁	金貳拾錢
表紙	一頁	金貳拾錢
表紙	一頁	金貳拾錢

昭和二年十二月廿四日印刷  
昭和三年一月一日發行  
東京府花原郡品川町南品川四百一十二番地

#### 不許複製

編輯所 東京府花原郡品川町南品川四百一十二番地  
發行所 東京府花原郡品川町南品川四百一十二番地  
編輯所 名古屋市東區田代町字城山七十七番地  
發行所 名古屋市東區田代町字城山七十七番地  
編輯所 東京府花原郡品川町南品川四百一十二番地  
發行所 東京府花原郡品川町南品川四百一十二番地

# 統一

# 一



本多日生猥下著書

(現在品のみで賣切れのものには注  
文されても餘計な手数で困ります)

本尊論

布装 一部 金 七拾錢  
送料 一部 金 四拾錢

法華經要文

布装 一部 金 五拾錢  
送料 一部 金 二拾錢

法華經の行者日蓮

廿部 金 一圓五十錢(送料共)  
一部 金 一圓五十錢(送料共)

修法勸行の心得

十五部 金 十五錢(送料共)  
一部 金 一圓五十錢(送料共)

教育勸語と思想問題

十部 金 廿錢(送料共)  
一部 金 一圓(送料共)

名古屋市東區田代町城山

統一編輯局

振替名古屋一〇八一九

多數購讀の節は特別割引御座會下さい。

教

第二卷第十二號出づ

本誌執筆著

その堂々たる内容  
各方面名家執筆

本多日生  
野田良治  
澤田節藏  
永井米藏  
岩野直英  
高島平三郎  
石田誠

毎月一回 十一日發行 一部金十錢

東京府荏原郡品川町南品川四二二

發行所 教發行所

(振替東京一〇九四〇番)

立正安國論と立正觀抄

本多日生

次に信仰の上に於ては、自分の信仰を捧げる相手方の神様佛様と謂はれる信仰の対象が完全でなければならぬこととあります。下手な者は鱈の頭も信心からといふことを謂ふはれども、鱈の頭などを信する宗教は全く愚なるものである。鱈どころではない、どんな完全なる人間を信しても人間を信じて居るのでは宗教と言ふことにはならぬのである。どうして此の宇宙の最大絶大なるものに向つて何物をも超越して居る所の完全無缺のこれ以上のものは無いといふ最高完全の大人格者を捉へ来らなければ宗教とはならないのである。其のこともこれは人類の知識に於て公認されて居ると言つて宜い位である。宗教とは最高完全の大人格者に接觸する、これを信仰と

謂ふことの定論と申しても宜いのである。これを中途半端なあの稻荷が利くであらうか此の狸が利くであらうかといふやうな、さういふことを言ふものは宗教の中に墮落して居るものである。芥溜めの中へ菌が生えたやうなもので宗教を頽廢する所のものである、そんなものは論ずるに足らぬ。これが宜いかあれが宜いか一々言ひ譯したりそんなことを何時までもやつて居る國民は全く低級なる國民である。宗教を信するとならば最高完全を理想として進むが當り前のことである、問題はない。そこで日蓮聖人は其處へ突入して行つた。同じく宗教を採るならば、同じく信心をするならば、最高完全の所に進めといふことを變合したのである。それは斯ういふ譬を以

てして居る。宗教を信する其の人々の心得が如何に善からうとも信する相手が低いものであり缺けたものであるならば宗教の信仰は價值なきものである、恰も女が夫を定めるやうなものである、其の女自身は心得も善し品格もよし容貌も美しといふのであつても、泥棒を夫とすれば泥棒の女房といふことにならぬであらう、若し畜生と〇〇したならば其處に出来た所の人間は如何なる下等な人間よりも尙ほ低いと言はなければならぬぢやないか、日蓮はさう言つて居る。「假令王女なりと雖も畜種を懐妊すれば其の子旣陀羅に劣る」と言つて居る。假令人間がどれ程立派であらうとも蛙を拜めば蛙より低き人間となり、狸を拜めば狸より低い人間になる、人間がそんな低いものに掌を合せて拜むことはどうしても頭から水を打掛けるより外方法が無いのである。そこでどうしても信仰は最も完全に向つて進んで行かなければならぬといふことに於て日蓮聖人の紹介せられた御

ことも出来ない固まつたものである。これを唯一神教といふのである。日蓮の教へる所の本佛は此の電燈のやうなものである。幾らでも線を延ばして行けば何處にでも其の光を放つ、元は一つの光でこれを必要に応じて擴げれば千萬無量の電燈となつて輝く、これが十燭の電燈であらうが六十ボルトの電燈であらうがそんなことを氣にする必要はない、電球を取替へさへすれば幾らでも大きくなる。此の偉大なる宗教の統一神を明かにしたといふことは、往いては世界の宗教を併呑し包含する所の偉大なる權威を持つて居るものであつて、そこに又日本の尊さも現れて来るのであるが、一番日本國民が世界に誇り得るのは日蓮聖人の貢獻したる本佛の光に依つて日本國民が最後の光榮を有する點である。宗教の神様などは國民の榮辱に何の關係も無いと思つて居るのはまだ文化を理解しない所の人である。其の國民の奉ずる所の宗教の對象者が世界に冠絶して居るもの

佛は御名は釋迦牟尼であるけれども、その釋迦牟尼を御本すると申して現れ給ひし人間に降誕し給ひし釋迦牟尼を通して其の内面に含まれて居る所の絕對の佛陀を顯はし人格を造はして説明したる所のものであつて、それが即ち法華經であるのである。應身の如來として現れし釋迦は有らゆる點に有限であるけれども、其の有限は寧ろ吾々に接觸する爲に有限に現れ給ひしが、其の本質本體は時間を以て言へば、始めなく終りなく存続する實在の如來である、働きも絶大智慧も絶大、絶大といふ點から言へば、本來佛教に於て現れて居る凡ての佛の凡ての活動は此の釋迦牟尼の活動の一波動に過ぎないものであるといふことを明瞭にしたものである。さうしてそれは宗教學的に申せば、基督教のやうに唯一神教ではない、統一神教である。基督の神は大きいといふけれども一つきりである。一つの圓子なら圓子のやうなものである、それを二つにすることも三つにする

であつたならば、其の宗教の本尊の冠絶と共に其の國民の光榮が輝くのである。お前は何を信じて居る、話らぬぢやないかと言はれた時に、命まで懸けて信仰して居る宗教が斯う言つて彈かれたならば掌を合せて居る者は一遍に顔色がないぢやないか、それが分らぬでござる。今は權利だ利益だといふけれども、最後は人間の高潔なる所の精神文化に於て勝敗を決しなければならぬものである。そこで抑々日蓮は此の偉大なる本佛を釋迦の御名に於て光顯した。佛教各宗などはこれに對しては實に幼稚なる考を持つて居る、唯だ釋迦の生れた日に降誕會のみ一緒にやるけれども後は別れて薩張判らぬ、生れた日は有難いけれども後は構はぬといふやうな、そんな譯の分らぬ話はないではないか。東亞佛敎大會を増上寺に於て開いた、其の時柴田一能君や加藤唯堂君の盡力に依つて何にも決まらぬと言つては仕方がない、お釋迦様の生れた日は世界中の佛教徒はこれを慶讚

しようぢやないかといふことだけ決まつた。生れた日だけ一つになつて後は又ばら／＼になるのはどういふ譯だ。それは日蓮聖人の教に従へば何も宗旨宗派に傷つくものぢやない、元々釋迦の御名の下に集つたものだ、釋迦の御名の下に集つた人は如何に分裂して居つても釋迦の御名に於て集ることに反對する譯はない、何故に佛教徒は釋迦の御名に於て釋迦の絶大を見ることに反對するか、吾輩はそれを解することが出来ない。そこで先づ拜む對象が一番偉いといふことが、これが日蓮聖人の宗教信仰に與へた第二の尊といふ點である。一番強い一番満足し得られて一番戰鬥力の強烈なる信念を握つて働いて居る者が一番完全である信仰の對象を示した、これが日蓮聖人が宗教の信仰方面に與へた二大特色であつて、信仰上の立正と申して宜いと思ふ。

然らば修養の方はどうであるか、これは矢張り日蓮聖人の書かれて居る遺文を見れば極めて明瞭のこと

心を中心にして智仁勇の三方面が強烈に高く深く大きく伸びて行くことが人格の完成といふことであります、そこで此の基本人格と屬性人格の整頓といふ二つに就て大聖人の人格を考へたならばどうであるか。聖人位此の眞心の活躍した人はない、聖人は最初清澄山頭に於て一つの誓を立て、我を日本第一の智者と成し給へ、どうぞ私をして日本第一の賢い者にして貰ひたいといふことを智慧の虚空藏に祈られた、其の祈るや遂に彼は血を吐いた、これは誰でも知つて居る、清澄山頭旭が森にある虚空藏堂は今も其の當時の建物其の儘残つて居る、其の虚空藏堂に於て聖人は遂に血を吐かれた。人間が理想に志を立て、どうかして本當の偉い者になつて人を救ひ國を救はなければならぬといふ發心の爲に熱誠凝つて血を吐くといふことは、これは實に眞心のある人と謂はなければならぬのである。人は能く血を吐くといふことを謂ふ、心血を注いでといふことを書

であるけれども、さういふ文句などを引張つて來るまでもない。日蓮聖人の人格を見れば、彼が太鼓を叩いてごんごやつた人かどうかといふことが能く分る。昨日のお會式のやうに白粉をつけて鉢巻をして飛び歩く、日蓮はあれの親玉だ、法華は喧しい宗旨だと言つてそれだけが日蓮の全體だと思つて嘲つて居る者もあるが、あゝいふことをする者も憚れであるけれども、それだけが日蓮の全體であるとする人はより憚れである。日蓮の人格を見て御覽なさい、先づ人格のことに就て簡単に修養の話をして置かなければならぬが、私の理解する所では人格の問題は基本人格と申して、人間の心の戸を開いて人間の絶對の靈性を目覺めさせることが根本の問題である。それから目覺めた其の靈性の活動が智情意の三方面に及んで、智慧の方に於ても賢い、情の方に於ても優しい、意志の方に於ても強いといふ風に、賢くあり優しくあり強くあるといふ三方面が活躍して、眞

くけれども、それは文字だけであつてちつとも血は出はしないのである、餘程えらいことでも出ない、男女の欲望は最も強烈に現れるけれども、わしはお前の爲に血を吐くといふのは文章であつて、中々惚れて血を吐いたといふことは聽かない。日蓮聖人は唯だ理想の爲に本當に道を學び得なければならぬ、間違つたことを教へてはいかぬ、宜い加減な所で宜い加減のことを言ふならば寧ろ死んだ方がましだと日蓮聖人は文章に書いて居る。私の考が間違つて居つてさうして直してやらうとお考へになつても直らぬやうな出來損ひの腦であるならば一番に命を取つて下さいと書いて居る。實に一言一行命を懸けてやつた人である、だから此の學問修養の時代に於ける血を吐いたといふことも、日蓮聖人が眞面目で眞心の結晶した人であるといふことを現して居る。後學成つて三十二歳房州に歸へられて、これから愈々鎌倉に出て布教をせられ、後伊東の流罪からゆるさ

れて、故郷の小湊のお母さんの所にお出でになつた、所がどういふことであるか其の日母親は頓死をせられた。日蓮聖人は非常に嘆いて折角歸つて来て緩つくり母と話さうとしたのに僅か言葉を交したばかりでお母さんが斯様にして死んでしまはれた、こんな情けないことはない、どうぞもう一運廻つて下さいと言つて庭に跣足で飛下りて松の木の下へ行つて天地を拜して一心籠めて母の養生を祈られた、不思議なことそれが法華經の御利益か日蓮の念力か何かは判らぬけれども、一旦死んで居つた所の母親が生き返つたのは事實である。宗教家の傳には往々拵へ事が多いけれども、今私の話すことは決して後から拵へた事ではないのである、皆其の時の事實として誰もこれを否定することは出来ないのである。母を祈つて將來四箇年の壽命を延べたと日蓮も書いて居るのである。其の死んだ母を蘇らす力といふものは所謂至誠天地を感動する真心の強烈なる現れと

して之を見なければならぬのである。又彼は龍口に引出された時に掌を合せて「首斬るべくは急ぎ斬るべし夜明けなば見苦しかりなん」と泰然として首を斬らるべく決心をして居つた、けれども聖人の真心が天地に通じたといふものか、不思議なことに今まで種かであつた所の天地が俄に掻き雲つて一丈ばかりの光物が江の島の方より飛び來り、即ち雷電霹靂一時に起つて砂を巻き、太刀取り依智の三郎は眼眩み倒れ伏し、三百人の兵士は或は馬の上に着くまゝり、或は大地にひれふすもあり、一丁二丁馳せのきぬといふやうな光景になつて遂に日蓮を斬ることが出来なかつた。これも事實ではないか。掌を合せて居るとガラ／＼と來た、私も帝劇で幸四郎のやつた時に觀て居ると、大きな松の木が一本バリンと倒れた。至誠天地を感動するといふことは大和民族の總てが信じて居ることである。大事の場合には一誠以て天地を貫くといふことは明治天皇のお示しにもあ

る、我が軍人魂の結着する所も其處にある、六千萬國民の最後の決心は國民の至誠は必ず貫徹するものなりといふ信念に生きて居る所の民族である、其の模範者として日蓮聖人が出て居らるゝのである。日蓮は眞の日本人の模範的人格である、何も怖れるといふことはない、三百人の兵士が刀を二本宛六百本差して居つても何も怖るゝことはない、一心に合掌して居る日蓮に向つて彼等は遂に其の首を斬ることが出来なかつた。斬られても少しも差支ない、道の爲に命を捨てることは尊いことである。然るに日蓮は斬れまいと思つて居つたのではない、首斬るべくば早く斬るべし、結局は斬れまいがといふ、さういふことを彼は考へて居つたのぢやない。「先生、吾々の戴く日蓮聖人に對して彼とは不敬に當るぢやありませんか」と呼ぶ者あり、これは一寸申して置きますが、私は日蓮聖人といふ言葉を使はなければならぬが、一々日蓮聖人日蓮聖人と言つて居ると言

葉がやゝこしくて辯論が延びないから、斯ういふ場合に彼といふ言葉は決して不敬でないと思つて居ります。それはあなたが不敬のやうな感じを爲さるけれども、これは從來斯ういふ言論をする人の間に共通して居ること、時間を尊重する時に初に尊敬の言葉を使つて居つたならば後に彼といふ言葉を使つても決して不敬でない、それであるからして彼と言つても不敬でないと思ふ。それであるから日蓮聖人が左様にして至誠天地を感動せしめられたといふことは、これは道德修養の中の基本人格といふものを開いた上に於ての一番大事な所を聖人が示して居るのである。これは聖賢の學をおやりになれば直ぐ判る、論語でも大學でも中庸でも本當の所へ行つたならば「吾道以一貫之」「夫子之道忠恕而已矣」忠恕とは至誠、至誠一貫といふことより外論語も中庸も大學もあつたものではない。明治天皇のお示しになつた「心だに誠ならば何事も成るものぞかし」一つ

の誠心は又五箇條の精神である、此の御聖旨を貫くといふことは大和民族の精神である。それを日蓮聖人はちやんとあの通りに至誠天地を感動せしめ、否至誠の満點に達して居る所の修養の模範者である。何も彼處で念佛無間と言はれたから忌々しいとかそんなことを考へる必要はない、日蓮聖人の法を思ひ國を念ふの志遂に天地を感動せしめて、神様も佛様も常に日蓮に味方して居る以上はへつばこな人間などが彼此言ふ必要はない。天地之に贊同し天地之に感動して居る。然るに日蓮聖人に對して偉大なることを感じ得ないといふのは餘り執着の心が強いと云はなければならぬ。又大聖人は智仁勇の三方面に就て考へても非常に能く整頓して居る人である。人往々日蓮は唯だ剛毅な人だ、強い人だとのみ考へて居るけれども、聖人の優しい側は聖人を研究する人に於ては最早問題でない、日蓮聖人は「鳥と虫とは啼けども涙落ちず日蓮は泣かぬと涙ひまなし此の

たが地獄に行つたならば日蓮は雲山へ歸れと佛から呼び戻されても「雲山には歸へるまじく候」、あなたが地獄へ墮ちられたならば、あなたの行つて居る所へ一緒に行くといふことを言はれたのである。これを貰うた四條金吾は實に感激したことであらうと思ひます。日蓮聖人の其の言葉は今の眞面目な精神から現して居るのである。あなたはやり損ひはしないだらうけれども、若し不覺でやり損ひをして今後あなたが地獄に行つたならば、私はあなた一人を放つて置いて淨土へは歸らぬ一緒に地獄に行くと言つた日蓮聖人は實に涙の人であつて、斯様にして日蓮の優しい側は到る處に現れて居るのであります。最後に日蓮の乗つて來た馬に就ても、身延から波木井殿の馬を借りて池上にやつて來て、さうして鹽原の方にお出でになるのであるが、其の時に鹽原の方は道が悪い風土が遠ふから若も馬が病氣に罹つてはいけないといふので茂原殿へお預けになるので

は世間のことにはあらず、偏へに法華經の爲なり、されば甘露の涙とも申すべし、日蓮聖人は甘露の涙を常に流して居つた人である。日蓮が慈悲廣大なれば——日蓮が慈悲廣大なればといふ言葉は到る所に聖人自ら言つて居るのである。日蓮は慈悲に於ては人に譲らぬといふことを常に申して居る位に優しい考を有つて居つた人である。それ故に土籠御書に於ては弟子日朝に對して與へられたあの御文章は「日蓮は明日佐渡國へまかるなり今夜の寒さにつけても牢の中のありさま思ひ遣られていたはしくこそ候へ」唯だ「いたはしくこそ候へ」といふ言葉であるけれども、之を讀んで涙を流さない者は無いといふ位に日蓮聖人の慈悲の心が含んで居るのである。日蓮聖人の優しいことはもう多く言ふ必要はない、四條金吾に對しても斯ういふことを仰せられて居る、「殿若し不覺にして地獄におはさば……」あなたはやり損ふ人ではないけれども、假にやり損うてあな

ある。其の時に茂原殿に預けるのは宜いけれども、波木井殿から連れて來た所の別當を付けて茂原へ預けたいといふので、波木井殿へ送られたのが最後の絶筆の文章である。其の文章はさういふことが書いてあるかといふと、此の馬を鹽原へ連れて行くのは可哀想であるから茂原殿へ預ける、別當は農事が忙しい時であるから返さなければならぬ、併し別當を取替へると氣心を知らないで馬が可哀想だから、此の別當をもう少し付けて置きたいからさうぞ承知して呉れといふので、此の文章が最後の絶筆である。さういふ優しい味が現れて居る所の人である。さうして賢い側はさうであるかといふと、最初から日本第一の智者と成し給へと言れた程に、日蓮聖人の宗教の解釋、或は道德思想の解釋は決してお有難主義ではない、何もかも宜い加減にして唯だ一途に一途にと言つて信仰を教へた人ではない、思想の研究に於てもあらゆる側の研究を何處までも合理的

にすつかり判断を付けて進んでおいでになつたのである。それは聖人の書かれて居る此の遺文其ものが、如何に日蓮上人が知識の上に於て透明なるものであつたか、古今の難問題を解決して進まれたかといふことは日蓮聖人の教學をやる者に於て直ぐ分ることでありませう。決して日蓮は感情的の唯だ信仰一點張りの人ではない、堂々と思想研究の上に一家を成して教を立てられた人である。それであるから知識の上に於て、これは高山樗牛氏なども申して居る、當時の學問として爲すべきものは悉く爲し終つて佛敎を研究し儒敎を研究し精神の敎を研究し、其の他時代の文物を悉く研究し終つて、日蓮は當時に於ける文明の事柄に於ては達せざる所がなかつたと樗牛氏も言つて居る程に彼は知識の側に於て豊富なる人であつた。勇氣の側は今更申すまでもないことで、あの迫害多難の中に處して一度も弱つたことはない。それは佐渡の生活の中に書かれた文章が澤山あるの

であります。何處にも佐渡の文章に於て弱つた所がない。一番初に書いたのは開目鈔であります。開目鈔を讀んで見ても實に堂々たるものである。開目鈔の終りは「流罪は今生の小苦なればなげかしからず」流されて居るのは苦しいやうであつても人生に於ける小さな苦しみだ、「流罪は今生の小苦なればなげかしからず後生に大樂を得べければ大に喜ばし」といふのが開目鈔の結論であります。これは唯だ強いと言つて叩かれても何構はぬ俺の身體は不死身だからサア殿れといふ譯ではないのである。自分の眞の内面に於ける信仰、愉快の力、喜びの力が強烈であるから、此の儘木葉微塵になつてもそれで宜いといふ最大満足の方が此の強烈なる勇氣を現したのである。だから日蓮の剛健は唯だ世間並の剛健ではない、宗教の信仰より得來つたる順當なる信に基く力であるといふことを見なければならぬと思ふのであります。斯様にして屬性の智仁勇の三方面に於

ても整頓として居る人である。眞心を磨いて賢い側も優しい側も強い側も能く現れて居る人であるから、斯様な人格者に接近することに於て國民は整頓したる人格を得るといふことは申すまでもないことであらうと思ふのであります。

今一つ思想の側に就てお話を申上げるのであります。これも範圍が廣いことでありますけれども、大事なことを二つ程擧げて申上げます。思想問題の大に分るゝ所は精神生活の價値を能く認識するか否かといふことであります。現代を「禪」するものも物質生活が餘りに勢力を得て、精神の方面が薄らいで來たことに因つて色々思想が混亂すると思ひます。お釋迦様が申したのもそれでありませう。釋迦は斷常の二見といふものを攻撃しました。斷見といふのは靈魂滅亡を説く所の唯物論であります。常見といふのは倫理や善行を否定して放縱生活營まんとする所の頹廢氣分を指すのであります。此の無宗教無道德

の生活を否定し、人は何事よりも宗教の信仰と道德の觀念とを得て人生に立つべきものである、國家を治める原則も如何様なる法律を作り如何様なる政治を布いても、國民が此の道德と宗教の意味を捨てゝしまつて、斷見常見のやうな唯物主義に陥つたるときに於ては其の國は健全に發達しないといふことを釋迦は力説したのであります。此の斷常の二見が本になつて、これが根がらがつて六十四見を生じ邪見の稠林といふ足踏も出來ないやうに世の中が混亂の状態になると説いて居るのであります。元へ戻れば斷見常見、即ち宗教を忘るゝと道德を忘るゝことに因つて如何に經濟を講じ政治を行つても、文明は健全に發達し得ないといふことを斷論したのが釋迦の教であります。一點それには惑ふ所は無い譯であります。何も政治が腐敗したから政治の倫理化を説く、經濟が餘りに利己的であるから經濟と道德をくつつけると謂ふが、政治や經濟が道德宗教を没却して立

つならばそれは滅亡に向つて居るものなりといふことは明瞭な事柄である。今實際茲に現れて居る證據でありませぬ。随分日本の文明も大勢の人が努力して居るけれども、宗教や道徳を輕んじて法制經濟の方を重んじて居る、宗教や道徳を此の位やるならば法制や經濟を此の位やる、其處が人心の動搖を來す所の根柢であります。少くも法制經濟を此の位にするならば、道徳宗教も此の位にしなければならぬのであります。寧ろそれを積み重ねる上に於ては、法制經濟よりも道徳宗教を上置き置かなければならぬ、制經濟を上置き置かなくてはならぬ、法制經濟を上に置いて道徳宗教を下の方に置かうとするから混亂を來すのである。これはもう古今東西の哲人を呼び來つたならば皆其のやうに言ふ、譯でもさう言ふ。畏多しいが、明治天皇様がお在になつても、或は乃木將軍、楠木正成、誰でも日本中の偉いと思つて居る人に皆集つて貰つて相談をするならば、其の通り其の通りと一決する。それでありませぬ

どうしても命を捨てる。斯の如く明に唯物的常見を去つて、精神生活の價値を高張力説して居るのが日蓮である、國民が之に還れば宜いのである。現代はそんなことを言つても兎角パンの問題、人間は食はんければ仕方がない、何と言つても生活といふことを餘りに多く言ひ過ぎるに因つて世が亂れる。無論世の中に生きて居る間は食はなければならぬけれども、決して生きて居るばかりが問題ぢやない。時と場合に依つては惜しき命も意義あることの爲に犠牲になつても宜いといふことを覺悟しない文明に何の光がある。日蓮聖人は其の精神生活を道徳や宗教の高潔なる理想に生きて、其の理想實現の爲に吾々は存在して居るのである、唯だ肉身を保全せんが爲に人は生きて居るものでないといふことを明瞭に證明した點に於て思想の解決は此の一つで澤山である。もう一つ思想問題に於て大事なことは國家意識である。色々の思想から、或は宗教の教化信仰から、

から日蓮聖人の此の思想運動の根柢に於きまして、彼は精神生活を高張力説して居る點は身を以て之を示して居る。臭き頭を法華經に捧げると言うて居るのは此の肉身よりも精神の價値が大きいものである、人間の身體は如何に惜んでも惜み送げるものにあらず、一息絶えたならば裸體にされて直ぐに或は焼かれ或は野に捨てられるのである。霜露の命、霜や露の果敢なく消え去るが如くに、人生長いと謂つても五七十年、過ぎ去つて見れば一瞬の儚なさである、此の有爲轉變儚なき肉身の爲に永遠に光を放つ精神生活を忘るゝことではないかといふ、此の文章を日蓮聖人の御文章の中から拾ひ來つたならば到る所にある。法は重し身は輕し道あるのみ道あるのみと言つて力説したのは日蓮である。日蓮の身體は何時でも惜まぬ、龍口の時も「本より存知の旨なり」と言つて居る、此の事を言ひ出すからには初より命は法華經に捧げて居る、惜む所のものでない、

或は人道主義であるとか、社會主義であるとか、個人主義であるとか、今さういふ名前を言つて居るけれども、昔も矢張さういふ考はあつた。國などいふものは小さなものである、兎に角世界とか人類とか道とか法とかいふものは大きなものであるといふことを言つて、國家の存立、國家の結合といふことを輕んじた思想家は澤山あるのである、のみならず日本の國の存立の意義を理解しない、支那の學問をやつては支那を尊崇して日本を侮辱し、印度の學問をやつては印度あるを知つて日本あるを忘るゝといふやうなことが往々にして學者宗教家の迷ひであつたのである。然るに日蓮は敢然として立つて、國滅び人滅びなば何れの處にか佛を信すべき法をば崇むべきや、先づ國家を祈つて須らく佛法を立つべきなりと論斷した。唯だ宗旨宗派を弘めると言つて、國民道徳を忘れ人の人たるべき道を忘れて、朝から晩まで鉦をカン／＼叩くことばかりやつて居つてど



うするかといふことを言つて居るのが日蓮で、彼は偉大な宗教を持ち非常に大きな思想を持つて居たと同時に、國家的意識を明かにした、日は東より出て西を照らす、日本の使命は最後に世界の文明を完成して、人類全體の光になるべき日本であるといふことを力説したのである、其處に立正安國論などが現れて居る次第であつて、此の偉大なる思想家が日本

の國體、日本國の使命を明かにして、國家の意識を教へた點に於て思想界の先覺者であります。斯様にして信仰の側、修養の側、思想の側に於て、何れも正しき導きを與へられたる人であるから、立正大師の謚號を賜つたことは誠に正當にして有難きこと、感激致す次第であります。之を以て私の講演を終ります。

### ◎統一團本部教戰錄

△十二月廿五日午後一時より統一團本部及東京支院主催先帝陛下御一周年追悼法要交修。當日日本多大本部正は茶館を引ひて尤も盛麗なる大法要を交修された、二百餘名の参列員も各々から誠を捧げて御回向申上げ、法要後は「思想の基準に就て」の題下に總裁陛下は約二時間巨つて國家理想を幾々力説された、同五時會衆一同心から法後にひたつて歡會した、閉會の後來る可き昭和三年正月の統一團新年宴會を月番幹事制度實施に付き幹事會を開いて協議する處があつた。

一、團員代表挨拶。一、餘興。一、團員五分開演說。一、萬歲閉會。例年に比するに來會者は一寸少なかつたがそれでも百六十餘名の出席者があつた。何しろ天氣は申分なく日連主義日和さでも云ひ度い様で特に感じしたのは八十三歳になる品川の強信者山田豊次郎氏が出席された事だ、總裁陛下が昭和成長の我等の覺悟を促されたには一同感激に拜聴した、訓話終つて宴會に移り伊藤伊之助氏の餘興「鎌田五左衛門」の話に突を添かせ、佐藤澤水師(佐藤大太郎氏のお嬢さん)の琵琶「雪はれ」に正月の穿出たさを感じ、次で團員の五分開演說に入れば野山

高橋の兩幹事進行掛りの役目よろしく指名權を得て第一番に小原老將軍を起たせて成辰の波濤を顧ひ、矢ツキ早に山田豊次郎氏を起たせ所信を問ふ、山田氏開口一番永らく本團の御教へを受けましたが本年八十三歳に成りました、本年こそ皆様永のお別れになるかも知れません……さて決定信の一端を漏らされる處實に若連中顔色なしの元氣が今村藤一氏の氣勢加納千代子大和のい子兵等の婦人團の聲援、岡部源吉君の熱心の聲、等氣須益々上り一座満足の色をマ、マ、マヨせて午後四時野口上人の發聲で萬歲を三唱し會を閉じた。當日知名の出席者は、矢野茂樹下、岩野少將、佐藤鐵太郎中將、宮岡中將、小原少將等であつた、一月の當番幹事は岩野少將と玉川由太郎氏。

## 日本國民としての自覺

平 松 市 藏

### 五 鬭爭思想の誤謬

近來我國の社會に於て最も惱んで居ります所の思想は、所謂鬭爭と稱する思想であります。毎日の新聞雜誌を御覽になると有ゆる事柄に鬭爭と云ふ字が澤山使はれてをり、之が恰も社會改良の唯一の理想的合理的のもの、如くに唱へるものがあります。この鬭爭といふことは其字の示す如く鬭ひ争ふの意味で、牛と牛とが角で突き合ふ、犬が噛み合ふ、親子が殴り合ふ、夫婦が揉み合ふ、兎に角本能慾を満足せしむる爲めの力の争ひ以外に何等の意味を持たないものであります。故に動物的本能世界に於ける利害の衝突を力の争ひで解決すること、神靈的理

想世界に於ける理想的競争を道義で解決することの反對である。故に神様の御親類なる世界觀人世觀をもつて人間社會の思想とする我國の國家社會生活には、之迄幾多の經驗上排斥せられ來つたものであるが、近來鬭爭と云ふことが盛んに流行て來ました、之は前にも述べた動物の御親類たる世界觀人世觀を以て人間社會の思想とする國から來た所謂外來思想であります。所が此思想が吾々人間社會に用ひらるべきものであるか否や、長いことを説明する時間がありませんから爰に或る先輩から聞きました一つの好い實例をお話致します。其先輩の知人に柔道の達人な而かも思想問題にも相當智識をもつて居る人があつた、其人の所へ一人の青年學生がやつて來て色

々思想問題の話を末、「我輩も日本の青年として將來大いに奮闘せねばならぬが、それには吾々は本能といふことを否定することが出来ない、これは吾々人類にとつて最も大切なものであるから、大に之を發揮することが吾々人間の合理的理想である」と云ふ議論をやつた。柔道先生は懇々其不心得を論じたが、青年は「いや今日の學説は皆そうである、あなたの説は古い」といつて中々承服しない。そこで柔道先生は君の如き迷ふた者と議論したとて時は明かぬ、議論と云ふものは人間のある限り幾千萬年やつても絶えるものではない、一番早く判るように君に教へてやる方法があるといつて、イキナリ其の青年の襟首を取り柔術でギョウ／＼締付けた。すると青年は、そんな亂暴をしては困る、それでは文明人たる理想的合理性を無視する遣り方だと抗辯した。之に對し柔道先生は「我が輩の本能である、假りに君の説に従つて本能を満足させて見たのだが本能生活といふ

臨み、強制抑壓の權力的支配を遣つた、そこで被壓迫者たる各國の王様はこのローマ法王の支配から獨立したいといふので、所謂自主權なるものを主張して彼の宗教戦争なるものを起し、反抗的闘争によつて獨立いたしました、かくして各々國王なるものが獨立の支配權を得たのである。然るにこの國王が又人民を強制抑壓して權力萬能の支配をするやうになり、人民は復た之に反抗して闘争をやる。その抑壓と反抗との結果に依る闘争は西洋に於ける歴史を見れば随分澤山ありますが、彼のフランス革命の如きは其最なるもので、此革命後産業が發達するといふと、今度は資本家とも云ふべき所謂貴族富豪なるものが専横をやることになり、更に一般人民が之に反抗して産業戦争なるものが起つた、而して今度は無産階級の人民が替つて權力を振ひ社會主義なるものが横行することになり、而して資本家を壓服する力の闘争支配を遣ることになりました、斯くして現在

ものはかういふものである、どうだ苦しいか、本能なるものは君一人が満足して他人は之に満足せしめないといふのでは社會思想とはならぬ、それは平等でなければならぬから己の本能にも満足しろ、といふたさうであります。之で本能的闘争の理論は解決する筈であります。則ち互に自己の本能を満足せしめんとせば闘争となる、其闘争の世界には道義はなく力の争であるから、力の強い者が勝つは當然で、此柔術先生は思想上に於ても又學問の上に於ても極めて明晰なる理解をもつた人であらうと考へます。今日の闘争思想なるものは此柔術先生のやつた一つの喜劇に依つて解決し得ると思ひますが、恐らく各位も御諒解になつたことと思ふのであります。そこでこの闘争と云ふことは、歐米人の國家社會に於ける特産物であつて、御承知の如くヨーロッパ人の歴史は闘争の歴史である、彼のローマ法王が法權を持してあらゆる王侯貴族は勿論一般人民の上に

の状態に至つたものである。力の壓迫と反抗と、之は西洋に於ける動物的本能社會の必然的結果たる闘争の歴史であります。

## 六 闘争國家の状態

それからこれを國家思想の方面に就て觀ますれば、又幾多の事例がありますが、今一々之を述べる暇がありませんから、此處には其最も顯著なるものの一例に就てお話しすることに致します、それは彼の有名な英國の大憲章(マグナカルタ)であります。御承知の如く英國は大英帝國と稱し、西洋否世界に於ける堂々たる大帝國であります。然るに此國は大陸より君主は迎へて國家的統治を始めたものであるが、段々其入婚の王様が我儘をする様になり、家附の人民は其權力的壓迫に困つた結果、之に反抗して國民的自由を得んとしたのである。そこで終に人民が王様の胸に竹槍を突きつけて家附の人民たる權利を認

めさせた、之が即ち西洋の模範的紳士所謂ゼントルマンの誇りとする大憲章であります。即ち英國の憲法なるものは反抗の表徴たる竹槍の收穫物であつて、これは互に道義を無視した鬭争の結果であります。其他選舉權に致しまして、陪審制度に致しまして、皆鬭争の結果にあらざるはないのであります。此等の事例は私から一々詳しくお話を致しませぬで、外國の歴史を御讀みになれば直ぐ御判りになることでもあります。英國に於て然り、之を佛國にしても、獨逸にしても、露國にしても、伊太利にしても、其他の國々にしても、此原理は少しも違ひはありません。尙又之を東洋に於ける支那に就て觀るも、其歴史及び現在の狀況に於て、右に述べたる西洋のそれと異なる處のないことは、皆様が夙に御承知の所であります。鬭争思想を以て人間社會の眞理と心得るものは、又之を以て建國の精神たる國家思想とするものは、其違り方が我國の憲法發布や普通選舉法の

得の勘定丈であります。加之之を發議したウイムソンが自分の國に歸つた時には、其亞米利加が國際聯盟には加入しないと決めたこと云ふではありませんか。世界の各國が物質文明の行詰りで鬭争を重ねた結果、勝つたものも敗けたものも極度に疲弊して、如何ともしやうがない、其處で平和の假面の下に或は正義人道であるとか、相互扶助であるとか、社會連帯であるとか、互に名前丈は立派な言葉を以て休の好い宣傳はするが、行ふこと、言ふこととは正反對の虚偽であります。此虚偽たるや、自分丈が我儘勝手振舞ひ、動物的本能を満足せんとする魂膽としか思はれないのであります。本來から動物的本能世界を以て世界觀人世觀とする建國的素質を有する彼等の國が、其宗旨を改めてお國の建替へをしない限り正義人道の行はれやう筈がなく、鬭争に始まり鬭争に終る運命を有することは是非もない次第であります。

實施と異なる政治的手段に出ることは何の不思議はない處であります。彼の世界大戦なるものは其鬭争の相殺勘定をしたものであると謂へるのであるが、併し抑制と反投とは相對的に因縁相續して、彼の國の存する限り未來永劫絶滅することはありますまい。彼等は口に文明又は文化を唱へ、正義人道を唱へ正義人道を唱へては居りますが、乍遺憾彼等の國々は物質文明に有つても精神文明は宿を取らない、正義人道は外交の方便にはなるが己れの國には行はれたためしがないのであります。

亞米利加の前大統領たりしウイムソンと云ふ人が、國際聯盟とかナショナリズムとか云ふやうな体裁の好い言葉を製造致しまして、世界大戦の終末に立派なことを申したと云ふことは先程井上中將からもお話がありました。彼等が云ふが如き正義人道が果して彼等の國々に行はれ得たかと云ふと、ちつとも行はれないではありませんか、只行はれたものは損

す。

元來人間の社會が動物的社會と異なる所以のものは、倫理道德の所謂道義仁愛の世界があるからであることは前に述べたる通りであります。其人間社會の最も具體的に發達したものが國家であつて、此觀念を無視しては國家の説明は能きないのである。そこで鬭争思想を以て人間社會と心得て居る本能的國家に於ては、右の如き道義的國家の説明をすることが困難であるから、彼の西洋に於ける如く國家は人民の總意による契約であると云ふ學説を生ずるに至つた、之を所謂國家契約説と云ふのであります。之に依れば國家は其人民相互の合意で成り立つもの故、又人民相互の合意で國家を止める事も能き結果となる、尙又其國の主權行使者も人民と合意で無ければ主權行使者とはなれぬ、之が所謂共和國なるもの、成り立つ理由である。誠に頼りない不安な國家生活であります。之が人格主義の道德的建國でなく

して巧利主義の本能的建國であるから止むを得ない結果である。そこで此人民の總意に依る契約で主權の行使者を定める種類方法は幾多の事例があるが、先づ一血統のものを帝國となすものが英國の例で、一定期間だけ大統領とするのが米佛其他共和國の例であり、結局之等の國は主權人民にあり、其主權行使者たる帝王又は大統領は國家の機關であるから、所謂國家機關説なるものが生ずるのであります。然るに之を真似て全く性質の異なる我大日本國に應用し、天皇機關説など、云ふ途方もない學説を唱へるものがあるのは、縱令無理解の結果とは云へ斷じて許容すべからざる所であり、我國の主權は人民に在らずして天皇に在り、天皇は國家と云ふ普通人格を表現せらるゝものであるから、天皇あつて始めて日本國あるもので、決して人民に主權あり又其の契約によつて主權行使者たるものでないから、天皇は日本國の機械ではない日本國夫れ自體であります。

## 七 東西文化の融合

以上述ぶる所によりまして、大日本國の建國の精神、國家思想が、人間の本性たる神様の御親類の方の世界觀人世觀に基くものであつて、我國が古より神國と稱する所以の理も亦明らかであらうと思ひます。而して此事たるや物質を輕んじて精神を重んずると云ふ結果を招來する關係上、我國は精神的には最高理想の國であるが從來物質的には其發展に遅々たる處のあるのは止むを得ざる傾向であります。然るに歐米各國は前に述べます通り精神的には惠ま

れてゐないが、物質本位の國である所から其物質文明は頗る發達し來たことも道理であります。明治維新以來急激の進歩を以て物質文明が輸入せられ、吾々日本國民も大いに利する所があつた、又將來も大いに利する所があるに違ひない。乍併之と共に我國家思想と相反する動物的本能世界を人世觀とする唯物思想が、我國民の思想に侵入して來た爲めに國民の國家思想を攪亂するに至つたのみならず、惹いて國體をも無視せんとするが如き思想状態に墮落するものを生ずる虞あることは嘆すべき次第であります。佛敎では迷の根本を無明と名けてありますが、俗に所謂無明とは轉らすの意味で、理解の明かでない即ち覺のないことを云ふのである。西洋の長所たる物質文明を取入れたからとて、何も其短所にして而かも我國に立派に存する精神文明を造り亂す必要はないが、之は畢竟日本國民としての自覺、換言すれば我獨特なる精神文明の精華に付て理解が足り

ない無明に因つて起る迷である。併し此迷なるものは早かれ遅かれ覺に還り正に復るべきものでありますから、散々迷ひに迷つた結果は自殺をしない限りは覺の正しき途に還るに違ひない。早く覺つた人は早く佛の御利益を受ける、過を改むるに吝なる勿れであります、吾々は此迷へる同胞がありとせば速かに日本國民としての自覺を促して正に還らしめねばなりません。

サテ吾々日本國民は、我國有の精神文明の精華たる國家思想を益々發揚して精神上の大財産家となり、之を後世子孫に傳へて行かねばなりません、又西洋の物質文明の精華たる自然科學の應用は其長を採つて精神文明の發達に資する手段と爲さねばなりません、けれども吾々は彼等の低級なる精神文明の思想を取り入れる必要なく、寧ろ我高尚にして神嚴なる精神文明を以て彼等を導くだけの襟度を要する。換言すれば吾々は我長とする精神文明たる神靈的理

想を世界に遍照し、人類全体に對し親和共同の道義的徳澤に浴さしむると共に、彼等の長とする物質文明たる自然科学の應用を取入れて、之を生活の手段たる物的資料として物質上の大財産家となり、益々人間の本性を發揮する目的達成の利便に供すべきである。之が則ち東西文化の合理的融合であり、我歴史上重大なる第三次外來思想に對する意味ある調和であります。

然るに現在に於ては一般國民に於て我國家思想の理解が足りない爲めに、何でも彼でも西洋の眞似をするのが良いことと早合點をし、よく事柄の意味を理解せずして、自由だとか、平等だとか、調争だとか、甚だしきはモダンガールの眞似までするものがある、種々雑多な低級なる思想や風俗を模倣することが流行することは、思はざるも甚だしき限りであります。殊に自由だの平等だのと、學問臭い理窟ッポイことを振り舞うものがありますけれども、それ

が亦大なる感違ひの理窟を付けて居るのであるから笑噓の至りである。元來自由と云ふことは強制に對する相對的の言葉であつて、人間の倫理的道義の範圍内に於てのみ存する事柄で、道義的規律の内に於ける他律に對する自律即ち自己決定を云ふのであります。従つて規律のない所には強制も自由もある筈がなく、勿論絶對の自由なるものはあり得る道理はありません。故に動物的本能世界の我儘放縱は自由ではありません、若し獸類や鳥類に自由があると云つたら自由の神様も「クシャミー」をするでせう。又平等と云ふことは差別に對する相對的の觀念で即ち無差別を云ふのであるから、差別のある所に平等があり平等のある所に差別があるので、差別のない所には平等はあり得ない。従つて絶對の平等なるものは此の世の中にはあり得ない、若しありとせばそれは一切空で此の世の中を否定してから謂ひ得ることである。佛教に於ても如來様の御利益は一切平等で

あるが、之は諸現象の差別世界に對して客觀的に平等の御利益が施されると云ふことで、差別界を前提とした御利益の平等を説くのである。併し之を受け取るものには各々の性質氣根に應じて效驗があるもの故、其效驗は主觀的には各々差別的となる譯であります。彼の社會主義や國際主義なるものも、國家と云ふ差別が強度になるだけそれだけ此の主義の御利益があるものであるから、此主義を唱へるものは先づ國家思想を強固にして然る後に唱へるものでなくては意味を爲さない議論であります。蓋し我國民が假りに此主義を實行したからとて、西洋人が有色人種を劣等視し之を排斥することは、人間に感情のある限り將來とも變りはありません。又我國民が數億萬の有色人種に對して、平等の生活をしようとしても、之は事實でできない話であります。凡そ斯の如き詮索の足りない流行語は、動物的本能世界に這入り易い事柄であつて、多くの人を迷は

すことになるのであります。故に近來何でも目先の新奇なことを善良なることの如く考へて、家のお爺は古いよ、吾々は時代が違ふから新しいぞ、などと徒らに新しがる青年等が多いようであるが、之は眉唾物であります。人間の本性は前にも述べた如く清淨無垢なものであるが、絶へず此の世の中で汚されるものである。眞如の月に雲が蔽ふ如く其光明を遮られ易いものです。故に人間は日に日に此汚物を洗ひ落し心を新にする必要のあることは、吾々が毎日風呂に這入つて身体を洗ひ、又は洗淨器で衣類の洗濯をして着るのと同じである。之は迷染の汚れた世界より清淨の正しき世界へ還るのであつて、人間の本性を發揮すること即ち心を新にすることであり、新しいと云ふことは斯様な意味を有つもので、目先の變つたことを云ふのとは違ふのである、昔のことだから古いと云ふのは間違つてゐる。尤も普通に云ふ所の新古の別は性質の問題ではなく時間の間

題であつて、時から云へば今は新で昔は古いに相違

ないが、時の古い世にあつたものが悪いと云ふ道理

はあり得ないのみならず、古い時代から吾々人間社

會に必要とせられて變らぬものは善いものに相違な

いのであります。吾々人類は人間始つて以來動物に

なり度くないから之と別な人間だと云ふて居るので、

古いことが嫌ひな方は人間を自由廢業して動物のお

仲間にお這入りになるが宜しい、さすれば其人だけ

の議論としては一貫して居ります、然し人間社會の

常識では決して之を人間並には扱つて呉れません。

之等近代的流行病に取り付かれぬ爲めには、何卒

人間の本性、日本國民としての自覺を切望しなくて

はならぬのであります。

以上は極めて大略の御話を致したのであります、

説明の拙なる爲御諒解がでさ難いかと存じます、豫

定の時間が参りましたから之で終りと致します。長

らく御清聴を煩はしました事を感謝致します。(終)

# 菩薩行に就て

本多日生

そこで釋尊の教には、五戒の内に不飲酒戒を説い  
て、酒は毒藥なり、諸惡の本なり、酒を飲むことに  
依つて嘔も吐き、殺人もし、いろ／＼の罪惡は皆是  
より起る。佛法を信する以上は酒を飲むべからず、  
酒を嗅ぐべからず、舐めることを許さず、酤ること  
を許さず、一たび人の爲に盃に酒を酌いだならば  
五百生の間手の無い者に生れるとまで釋尊は説き切  
つたものである。佛敎は絶對廢酒論である。それ故  
に私自身は酒は早くより飲まない事にして居る、元  
來あまり嗜きでもないが、併し仲間には酒を飲まぬ  
ナンといふ奴はあかんと云つて嘲る者もあつたけれ  
ども、私は一人で頑ばつて居つた。生理的に考へて  
も、酒に酔ふといふやうなことは實に殘忍なる性質

を有つた者でなければ出来ない筈である。人間の身  
体は數億、數十億の細胞よりして組成されて居る、  
それ等の細胞が人間の身体を擁護するはたらきは、  
日本の國民が皇室に對するよりもモット熱烈なもの  
である。如何なる毒が体内に侵入して來ても皆細胞  
のはたらきに依つてその毒を驅逐して、人間の体を  
健全に保護して居る。所が酒といふ奴は一番恐ろし  
いので、ちようど社會主義者が爆烈彈を執つて至尊  
陛下に向はんとするやうに、酒を飲むといふと、そ  
の毒は轟らに人間の腦髓の中樞神經を侵さんとす  
るのである。他の毒は胃の方へ行つたり腸の方に行  
つたりしてマゴ／＼するけれども、酒の毒は單身爆  
烈彈を持つて二重橋から飛込んで行くやうな奴であ

## 第五號出來ました

### 末法の佛敎

會費

一ヶ月	牛ヶ年	一ヶ年
十二錢	六十二錢	壹圓
送料共	全	全
		廿四錢

- 一、日蓮上人の心血を注がれたる御遺文を天下に普及し必讀をすゝめん爲め毎月小分冊で「末法の佛敎」と題して發刊する事にいたしました。
- 一、難解の熟語には註譯を施し冠頭には見出しを附いたしましたから初信者未信者にも至極く解され易いと思ひます。
- 一、本分冊は完結しますれば大聖人御遺文全集となります。

(見本御入用の方は一金十錢封入御申し込み下さい)

### 神の御聲と旃陀羅の子叫ひ

四六版百餘頁  
定價 五十錢  
送料 十二錢

更始一新せんとする人々は必ず一本を備へよ國の柱となり船となり眼とならんとする方々の御入會を希望して止しません。

### 申込所

東京 淺草 清 鳩町 統閣圖書部  
東京 四谷區 雨寺町 法恩寺 御遺文普及部  
東京 神田 三崎町 二ノ二 振興社  
(振替東京五六壹四二番)

るから、そこで全身の細胞がこれを驅逐する爲に一度に活躍を始める。酒が一たび胃囊に入つたとなると、全身の細胞が動員令を下して活動を始めるから、からだ中が一逼に赤くなる、それは第一に血管が緊張して、數十億の細胞が、我が中樞神経を侵すとこの強敵來れりと言つて起つのである。それをまだ酔はんが、これでも酔はんかといつて盃を重ねる、ちやうど後から二重橋の内へ爆烈弾を提げて押掛けて行くやうな事をやつて居る、實に恐ろしい事である。とうとう全身の細胞が刀折れ矢盡きて中樞神経が侵されてしまふから、フラフラになつて舌は廻らなくなり腰は立たなくなつてしまふのである。それでも細胞はダン／＼訓練されて酒と闘ふ力が強くなるから、最初は一台で酔うた者が二合になり五合になり、だん／＼酔はなくなる、それは細胞が、何としても中樞神経が侵されないやうにしようといふので必死になつて働いて、全身の細胞が百戰の老

將軍のやうな勢を以つて酒と闘ふから、容易に中樞神経まで侵されないやうになるのである。だん／＼一升飲むやうになり、一升五合飲むやうになる、それは細胞が千軍萬馬の古武者となつて容易に酒の毒を中樞神経へ送らないのである。その忠勇なる細胞の惡戦苦闘の状態をも考へないで、一升五合で酔はなければ二升飲めと言つて、五郎八茶碗やコップでガブ／＼やると云ふに至つては、實に恐るべき態度で、殘忍この上もない事である。人間一生涯の間、親に産んで貰つてから死ぬまで、一代のあらゆる精神的事業を維持するこの体力、これを擁護して居るところの忠勇なる細胞に對して、毎日々々サウいふ殘虐なる事を繰返すことの出来る人間といふものは、實に殘忍性に富んで居ると言はなければならぬ。これが今日の科學の智識に依つて、合理的に文明人の考ふべき道德觀念である。故に釋尊は三千年の昔に於て、酒はいかん、飲むべからず、喫ぐべからず、

誣めるべからずとやかましく言はれた、一切經を讀んで尙ほ且つ酒を平氣で飲むことの出来るやうな人間は、モウ佛教のどういふ事をも信じ得られない人間であらうと思ふ。

日は泊つて來ると言つて出られたので安心して飲んで居つた譯である、元政上人はその有様を見て非常に驚き且つ悲しんで、「社中に示す」と題して、自分の門下生に對して酒の害毒を力説された文章である。讀んで見ると實に胸に應へる。

日蓮門下では深草の元政上人が酒の事をよく調べられて、草山集の中に酒に關する意見を書かれて居る、參考の爲に一讀せられたら宜からうと思ふ。それは平生上人は門弟に向つて酒を禁じて居られた、所が上人の留守の間に、深草の納所坊主や學生達が後の山に行つて近所から酒を買込んで来て、今日は師匠が留守だ、サア飲め／＼といふ譯で、鉢巻をして酔ぼらつてワイ／＼大騒ぎをして居る所に、その晩泊つて來る筈であつた元政上人が急に歸つて來られた。上人は非常に親孝行の人であつたから、用事の都合さへ附けば必ず歸つて來られる、鷹が峯といふ檀林に勤めて居られたのであるが、その日學校の都合で、泊るべきであつたのが歸られた。寺では今

朝鮮人を善良に導いて、將來等しく日本人として立派な國民に仕上げなければならぬが、彼等に酒を許して居つては永久に朝鮮人をして相當なる文化に進ましむることは出来ないと思ふ。又内地で考へても深川の労働街に落込んだ人間に、酒をむやみに飲めることを許して置いたならば、彼等が向上するの機會は殆ど得られないと思ふ。だから既に飲む癖の附いてしまつた者は仕方がないけれども、先づ自分の子供には絶対に酒を飲ませないやうにしなければならぬ。初めから飲む習慣さへ附けなければ酒をやめるは何でもない。だから「お父さんは斯ういふ毒を飲むけれども、お前は飲んで呉れるナ」と言つて、

血の涙を以つて子供には酒を禁ずるやうにしなればならぬ。それを「まア一パイ飲め、親父が盃をやるといふのに受取らぬか」ナンと言ふのは大なる罪悪である。

そこで禁酒といふ事はナカ／＼出来にくいから、廢酒といふ事が宜からうと私は思ふ。酒を絶対に造らない、日本國中何處を探しても酒は無いいふこととして置くのである。愈々無いいふことになれば、諦めが附くものである、私は煙草は好きで、夜など眼が覺めて喫みたくなつたならば、枕元に無ければ何處までも探しに行く、着物の袂から、外套のポケットから机の押斗から、方々探すけれども、愈々何處にも無いいふことになれば諦めて寝てしまふ、まさか家に者を夜半に叩き起して煙草を買はせるといふ迄はしない。それと同じやうに、日本國中山を越えても谷を越えても、大阪へ行つても長崎へ行つても酒が無いいなれば、それで諦めが附くの

出来るのである。まア酒を廢した一ヶ月か二ヶ月の間、習慣で飲みたいナ、一パイやりたいといふ欲望が起るけれども、「飲みたければ水でも飲んで置け」……斯う言つて置けばそれで済むのである。愈々酒は無いい、誰も飲んで居ないといふことになれば、容易く諦めが附く、そんなに難かしい問題ではない。

尙ほ戒に就て釋尊が言はれるには、道徳といふものに二通りある。それは宗教の信仰を加へての道徳(第一義戒)とたゞ世間の道徳(世戒)である、たゞ世間だけの道徳で行くといふと、どうしてもその事が破れる。恰も彩色に膠なきが如しと言つて、繪を描くのに美しい天人や花を描いてあつても、その繪具に膠を混ぜないで描いたやうなもので、ちよつと觸れば直ぐ剥げてしまふ。信心を根本にして道徳に進んだ者は、繪具に膠を入れて描いたやうなもので、その繪は濡れた雑巾でこすつても艶を増すのみにして剥げはしないといふことを説かれた、そこが大事

である。電車の中では嚴重に煙草を喫んではいかぬといふことになつて居ると、電車に乗つて居る間は喫まないで居られる、これが省線電車のやうに「御遠慮」と書いてあると、イヤ遠慮は出来ぬ……といふ氣になる。だから戒とか教といふものは非常に大事なもので、生ぬるくやつても効力を生じない事がある。殊に酒の問題などは、節酒が宜いといふけれどもそれは効が少くない、節酒が出来れば酒の問題は起らないのである。飲酒家に聞いて御覽なさい、必ずや飲酒の弊害に陥つて居る人は節酒は出来ない。それ故に酒は全廢すべきものである。日本の食糧問題を解決する上から言つても、酒を全廢したならば食糧問題は一舉に解決が附くやうな譯である。さうして健康上には、酒を飲まぬからといつて少しも差支ない、誰も困りはしない。酒を飲み居つた者が弱るかといふと決して弱らない、却つて身体が健康になつて人生の幸福を享受することが

なのである。信仰ある者は道徳を行ふ上に必要な堅固なもので、途中で倒れないといふ所に宗教の價値がある。信心さへすれば道徳は要らぬといふやうなことを言ふのは、膠さへあつたら繪具は要らぬと言つて、膠をかき混ぜて眞黒なお化みたいものを描いて居るのと同じ事で、今日はさういふ風な宗教になつてしまつたのである。何故斯ういふ間違つた事が流行つたのか、吾輩にはどうしても了解が出来ない、それは所謂宗旨を弘めるといふだけのものであつて、人を教へ世を益するといふ宗教の目的を外れた態度である。宗旨の爲の宗教であつて、人の爲め世の爲の宗教ではなかつたかと言はねばならぬ。

斯様なことが五戒品に説かれて、さうして尙ほ酒の事が特に言うてある。

「飲酒に因つて慚愧心壞れ、三惡道に於て怖畏を生ぜず、是の因縁を以つて則ち其餘の四戒を受くること能はず」



酒を飲むと愧づかしいといふ心が無くなる、地獄に墜ちるぞと言はれても少しもそれを怖れない、「ナーニ地獄も序に見物して来よう」といふやうなことを平氣で言ふやうになる。それが爲に酒が因になつてあとの四戒即ち殺生、偷盜、邪淫、妄語といふ四つの戒も一逼に壞れてしまふ。道徳をまもらんとする者は先づ信仰を有つこと、それから酒をやめること、さうして一切の善い事といふ順序に進まなければならぬ。斯ういふことが説かれてある。酒の好きな者には具合が悪いことだけれども、佛教では斯ういふことについて居るのである。私はたゞ忠實に釋教の教を研究して、御精神のある所を窺つた結果この事を申すのである。それが爲に自分は早くから、基督教禁酒といふことを日本の基督教徒が言うて居つたから、自分は基督教といふことはやめろ、何も基督教なるが故に酒を飲むといふのではない、人は酒を飲むべからず、國は酒の醸造販賣を許すべきもの

に關して説かれて居る、これも戒といふことは何を意味するかと言へば、一番大事なことは懈けた根性を戒めるのである。無暗にグウ／＼寝て居るとか、さうして悪い事を考へて居るとかいふ、懶惰にして惡を爲さんとする者を戒めるのが根本である。だからやはり酒が一番禁物になる。何もさう面倒臭く、冬も單衣物を着て裸へて居れとか、お粥を食つて居れとか律宗坊主がやるやうなことが戒行ではない。それから戒に就ては友達を慎むことが大切である、悪い友達に悪い事を教へるものであるから友を選ばなければならぬ、さうして恩を知つて恩を報ずるといふことが戒行の精神である。戒行と言つても別段餘計なことをやるのではない、恩を受けた者の恩を忘れぬやうにして行く、悪い友達を離れる、懈け根性を減める、斯ういふことになる、これはどうして人間として實行しなければならぬことである。菩薩行ナンといふ名が附くと何だか人生に遠い話のや

でない、であるから國民的廢酒と言はなければいかぬといふことを主張して居つた。今日は彼等も基督教といふことをやめて、國民禁酒會と稱して運動をして居る。禁酒ではまだ駄目だ、廢酒會とせよといふことを自分は唱へて居るのであるが、その中には彼等も廢酒論になるだらうと思ふ。眼の前に酒がブ／＼／＼香つて居るのに、飲むな／＼といふやうな、そんな不徹底なことでは駄目である。製造、販賣、運輸、飲酒一切をビタリと禁じてしまはなければ駄目である。釋尊は酒を醸るべからず、嚙ぐべからず、飲むことを得ず、舐めることを得ず、嗅ぐことを得ず、人の爲にすゝむることを得ず、盃に一杯を注いでやれば五百生の間手の無い者に生まれるとまで説かれた、實に徹底的である。さういふ教は基督教などにはない、であるから酒の講釋を聽きたければ佛教に來いと自分は始終言うて居るのである。次は尸羅波羅蜜品第二十三であつて、戒律のこと

うに思ふけれども、グウ／＼寝て、起きたら酒を飲んで何もしない、悪い友達と交つて、恩を受けたことは忘れてしまふといふやうな、だらしない生活をする者は、佛教信者とは言はれないといふことになるのである。次は業品第二十四であるが、業はいわごとといふことで、十善業といふものを茲に重ねて説かれた。それは身三口四意三と言つて、殺生、偷盜、邪淫の三つは身業、惡口、妄語、兩舌、無義語の四つは口業、嫉妬、瞋恚、邪見の三つは意業、併せて十の悪い事をしないやうにする。その根本はやはり懈け根性を起るので、懈けて居るから人の事を見ても腹が立つたり、嘘を吐いたり、又懈けて居るが故に偷盜をしたりする。一切罪惡の因は放逸懶惰の生活に萌すものである、大いに奮勵努力して人生に活動しなければならぬといふことを説かれた。それから辱提波羅蜜品第二十五で、所謂忍辱行と

いふものに移つて説かれる。忍辱行は前に言ふ通り辛いことを辛抱して行くのが根本である。これに世間の忍辱と出世の忍辱と分けられて、世間の忍辱では寒い時分、暑い時分、又不味い物を食ふといふやうなことに就て耐へ忍んで、己れの志す事に向つて精進して行かなければいかぬ。寒いから嫌やだ、暑いから嫌やだといふやうなことを言つてはいかぬ。それには先輩が皆なそれ／＼耐へ忍んでやつて居る。成功した人は、人の眠むたい時分から起きて働いて居るのであるから、それを見てその通りに學んで行かなければならぬ。それから出世の忍辱は佛法に對する讒謗、迫害、僧侶に對する侮辱といふやうな事があつても、それを耐へ忍んで忍辱の鏡を着て當つて行かなければならぬ。世間の事、出世間の事、俱に堪へ難きを忍んでそれに耐へて行くといふことである。この念なければ佛法信者たることを得ず、僧侶たることを得ないものである。

に海の水を浸けて他へ移して、それで大海を掻干す、ちよつと考へたならば逆もそんな事が出来るものではないと考へるだらうけれども、精進に居る者は出来るかと答へられて居る、その精神があれば、そこに諸天善神が出て来て手傳つて、神通力を以て海の中に入つてグーッと一遍に大海の水を半分ぐらゐ吸つてしまふ。ちよつと大きな動力の御筒を掛けて池の水を掻出すやうに、諸天善神が一遍に海に入つて海の水を吸込んで他の世界へ吐出した、見る／＼中に龍宮の屋根が見え出したとお經には説いてある。そこが面白い所である、今までの學者はそんな事は嘘であるとか、子供騙しの話であるとか言うて居るけれども、人間の精神力を説く上に於て、髪の毛を以て大海の水を掻干して見せる、その決心に諸天善神が賛成して、水を含んで他界に移して、爲に龍宮の屋根が見えて、龍王が到頭降参したといふやうな話は實に面白いことである。人生この意氣なかるべ

次が毗梨耶波羅蜜品第二十六即ち精進行であつて、精進とは善い事を爲し、悪い事をやめるといふやうに努力することを言ふのである。これは悪い方の根本がのら／＼根性であつたが如くに、善い方の根本は精進にありといふのである。精進は即ち六波羅蜜の正因なりと言つて、何處までも勉勵努力する精神が旺盛でなければならぬ。學問する時代は學問に熱中し、職業を選んでは職務に熱中するといふやうに、奮勵努力の精神の一貫するものが精進行である。だから鯨の貝で大海の水を掻干すといふ話がある、鯨の貝ではまだ大き過ぎる、髪の毛一本あれば、それに海の水を浸してはわきへ持つて行つて遂に大海を掻干して見せるといふやうに、如何なる困難でも仕途げるといふ精神が大切である。佛がある時一毛髪を以て大海の水を掻干し得るやといふことを尋ねられて居る、その時に弟子達は皆な答へて居る、「それは掻干すことが出来ず」、その精神である。髪の毛

からす、日本の今日ある所以は、日本人のその意氣、その精神が國家を維持して來たのである。小理窟や算盤勘定では日本は今まで持つて居ないのである。さういふ精神は何處までも保持して行かなければならぬ、即ち「自ら反みて縮くんば千萬人と雖も吾れ往かん」と云ふ心、即ち精進である。

### 法の友

主筆 草切 信榮

定價 一部金五錢(別に送料を要す)  
十五部 金 壹圓 (送料共)

大聖釋尊の經典は幾多の論師人師により註釋せられ、又現今發行せらるる宗教的の著書雜誌新聞も亦多數あり、加ふるに講演説教も各所に行はれて居るが、それは高遠にして解らないが、又は適切でないか、一般的でない。宗教教育に於て初步の論義を誤れば、俗信に捉はれて迷信の奴隷となり、姦媚邪神の奴となつてしまふ法の友は宗教常識の向上を目的として生れた。宗教教育の幼稚園小学校として進むのである。宗教を研究したいと思ひ乍らも糸口を見付けるに困つて居る人、講演會に行きたいが家庭の事情で出られない人、講演會には行つては見たが話がよく解らない人、宗教の事なぞ未だ考へたことが無いと云ふ人、極言すれば各家庭の大部分の方々の法の友として頂きたいと思ひます。

發行所

千葉市千葉  
七百二十五番地

法の友社

## 世界の民族競争に對する國民の覺悟

陸軍中將 井 上 一 次

此の三ヶ條といふものは休戦後の議會に於て直ちに協賛を経て夫れ／＼實施せらるゝ事になりましたがこれ等の點から考へて見ましても、彼等が世界第一の標語を着々實現してゐるといふことを諒解し得るのであります。この醜業婦の全廢といひ、全國禁酒の勵行といひ、或部分に於ては行はれてをらぬ點もありましますけれども大體に於て其の目的に達んでをります。禁酒に關する憲法改正後其實行充分で無かつたので當時の大統領ウイリソンは禁酒勵行の一段としてビールとアルコール分の弱い葡萄酒だけを除外してはどうかと云ふ教書を議會に提出しました。是の時議會は苟くも憲法の改正をしたのに、實行が出来ないといふやうなことでは國民の恥辱であ

る、禁酒令勵行費として七千五百萬弗即ち一億五千萬圓を可決するから、政府は嚴重に取締つて然るべしといふことで着々勵行せられ今や國民全體の聲となつて實現の途にあるのであります。この禁酒に就いて面白いことがあります。私は米國の南部墨西哥灣に近きミスシッピー河の沿岸にあるニオルレアンスといふ街に行つて聞いた事でありませんが、いよ／＼明日から憲法の改正といふ前日、その市長は、酒を貯藏して居る者は全部午後十二時迄にミスシッピー河の堤防上に酒を持つて來いといふ事を命じ、十二時を合圖に總て河に棄てさして了つたそうでありまします。これ等の點を考へて見ましても獨り議會のみならず地方の自治体に於きましても、それぞれ方

法を講じて禁酒の勵行に努めてをるといふことがお判になるであります。兎に角かういふ國民が太平洋を距てゝ向ふにをりますから吾々は共に考へなければならぬのであります。

然らば敗けた方はどういふ風かと申しますと、奧太利は志氣頹廢の形態を存しては居りません。獨逸は敗けてはをりますが意氣は決して衰へては居りません。伯林に行きますと、自動車の運轉手には、元の伯爵があり、ホテルのボーイには元の男爵があり社會狀態は極めて悲惨の有様のやうに感じられます。又或る方面の觀察などを綜合して見ますと獨逸人は戰爭に敗けたから再び立つことが出来ぬと考へてをらんのみならず、目下獨逸人の頭を支配してゐる考へは國內に於ける石炭や鐵は佛國のために押へられて居るから、利用することは出来ぬけれども獨逸人の腦力と努力とを以て波蘭及歐露の資源を開發

して、これに加工し世界の市場に經濟上の恢復をやらうといふことであります。

私は名古屋の街の店を見ませんから、何んとも申上げる事が出来ませんが、東京の街に於きましては、デパートメントストア等に廉價で然も非常に丈夫な獨逸製品が段々來てをるのであります。是等は獨逸人の現在考へてゐる所の事柄が現はれてをる一端でありまして、或方面から聞きますと今日我國に使用してをる下駄や雨傘にも獨逸から來たものがあるやうであります。彼等が色々と工夫をして經濟的恢復に努力してをる一斑を御諒解になるでありませんやう。

戰爭中革命を起して覆滅しました露西亞はかうであるかといひますと、諸君も御承知の通り只今共產黨が政府を組織してをりまするが、この共產黨員とは、私が北樺太撤退の際、色々話をする機會を得ました。當時實に面白いことには日本の全權の私が

一番年長で外の随員も概ね四十、五十前後のもの斗りでありましたが向ふのものは皆三十前後でありました。日本の維新當時の山縣公の如き、大隈侯の如き、或は井上侯の如き、或は伊藤公の如き何れも皆三十前後の青年でありましたが、彼等露國新政府のもの、意氣に於ても、矢張り我が明治維新當時のものと同じであるやうな感じを持つほど非常な意氣込みを以つて總ての會商に當つたのであります。彼等の唱へる所の主義なるものは、我が國体と全く相容れず、然も經濟的發展を阻害する主義ではありまするけれども、彼等自らはこの主義を以つて世界を風靡しやうといふ堅い決心を持つてをります。既に波斯方面に於きましても蒙古方面に於きましても、着々成功して居りますが我が新潟縣に於ける木崎村の如き、或は宮城縣に於ける鹿又村の如き、苟くも騷擾の起り易い所には巢を喰つて、他の地方に於ける病原菌の培養に努め逐次外を侵略しやうといふ考

想はごうでありますか」と聞きました。するとその人は「世界各國を廻つて見ても我が萬里の長城のやうな雄大なものはありません」と答へた、私は未だ不幸にして萬里の長城は實際に見ませんけれども、書物等で充分承知してをります、私も世界各國を廻つて巴拿馬や蘇士の運河も見埃及にも行き世界各國の大工事大建築物も大抵見ましたが、この支那人の言の如く、萬里の長城のやうな雄大なものは實際ないのであります。彼は祖先の造つた物を大なる誇りを以て述べたのであります。私は其答が稍意思外でありましたと共に更に問題を提起した、「あなたの國は昔から屢々外國の侵略を受けて主權者を變へてゐる、今後の支那はごうなるか、あなたの御考は」と尋いた。その時この支那人は「我國の歴史は四千年の久しきに亘つてゐる、この永い間に外國の侵入を受けたこともあり、主權者も色々變つたこともありがこれは敢へて怪しむに足らぬ、併しながら我が

へを以て赤手を延ばして居ることは皆様も御承知の通りであります。幸にこれ等の地方に於きましては彼等の運動は効を奏せなかつたけれども、吾々は決して油断する事は出来ぬのであります。

是を以て戦前に於ける世界の強國の目下の状況を申しましたが、もう一つ戦争には参加したと申しましても形式だけで、然も吾々から見ますと如何にも滅裂の状態にあるかの如く思はれる支那國民は如何であるかと申しますると是れも昔と違ひまして只今では從來容易に外國に讓歩した利權等も却てこれを恢復するに努力して居るのみならず、我國の滿蒙方面に於ける新要求に對しても或はストライキを以てする等色々の方法を執つて自國の權力の回復伸張に努めてゐるといふことは日々御覽の通りであります。私は曾つて羅馬のホテルに於きまして一支那人に遭つたことがあります。色々世間話の後、私は「あなたは世界各國を御廻りになつて、その御感支那の文化といふものは決して變つてをらぬ。今日でも昔の文化は依然繼續してをる」と傲然として答へた。支那は現在随分混亂の状態でありませうけれども、此の支那人の意氣は確かに賞讃に値いませう。斯かる考は支那人中の有識者、或は憂國の士中にも少いとのみ考へる譯には參らぬのであります。近時各國より色々提議を致しても、さう右から左へと首を垂れて追隨してのみ居らぬのを見ても判るでありませう。

世界列國民の現在の狀態並に考へてゐることは、概ね前に述べた通りであります。此の觀察は前に申しました通り、悪い方面のことを棄て、良い方面の事を觀察したのであります。この良い方面の勢力が各國民の頭に段々養成せられて、彼等がほんとうに覺醒して其美點は益々これを助長せしめ其の欠點を補備する事に孜々として怠らなかつたならば世界に於ける今日の形勢は如何になるでせう。

戦争の直後色々問題が紛糾してをります。未だほんとうの平和といふ平和は到達して居りませず、軍縮會議の如き、色々研究してはをりまするけれども、未だ完全に其目的を達してはをりませぬ。併しながら数日前石井大使がラヂオを通して世界は兎に角國際聯盟の指導の下に平和に向つて進みつゝあり又進ませなければならぬと言はれました如く私も矢張り同一の感じを以て世界の狀態を觀てをるのであります。然して平和的狀態の到達に伴ひ、今後の世界に於ける民族競争は、主として經濟的方面に於て行はれるであらうと考へるのであります。勿論かくの如き平和的競争、換言すれば經濟的競争は一面に於きまして、軍事上の關係の伴ふ事は自然の結果でありますと共に、各國民は各々國防上必要な施設を行ひ一朝有事の場合に於きまして外國のために、自國の權威を損することのないやうに努めるでありますよう。

かういふ風に今後民族的競争が起るものとしまたならば、我が日本帝國國民は、それじやあどうしたらいゝか、彼等以上に自分の國の美點を發揮して、もし自分の國に弱點があれば、これを補綴して、益々國力の充實を圖り世界に於て優勝の地位を占めねばならぬ事は申す迄もない事でありませぬ。言を換へて申しますれば各國民の有識者又は憂國者が色々自分の國の發展に就いて、考へてゐるやうに我國の有識者又は憂國者も亦同様に考へなければならぬ。又他の國が改造に汲々として居る如く我が國も亦改造を實行せなければならぬ。然して其研究が適切であるや否其改造が急速であるや否や、民族競争場裡に於て、我が國民をして優勝の地位を占め得せしむるか否やの岐るゝ點であらうと考へるのであります。鑒つて自分の陸軍出身以來の狀態を考へて見ますと、恰度士官學校を出た時に日清戦争がありまして、爾後日露戦争、世界戦争を経て今や、世界に於

ける三大強國の一つとなつたのであります。今年春以來行はれた海軍縮小會議の開催に際しまして華盛頓會議當時の五強國即ち、英、米、佛、伊中伊太利と佛蘭西は参加を拒絶しましたにも拘はらず日、英、米の三國でやつたといふことは、三國で決定すれば、世界の大部分を左右し得るといふ確信があつたからであります。現今我國の地位といふものは海軍力の比例に概ね現はれてをりまする如く確に世界三強國の一つになつたのであります。

扱てこれからはどうであるか、前に申しました列國の形勢から考へて見ますると今日世界に於て最も優勝の地位を占めて居るものは、有り体に言へば先づ英、米兩國に指を屈せねばなりません。この英米兩國といふものは御承知の通り、共にアングロサクソンの造つて居る國であります。この同人種のものが過般行はれた海軍縮小會議に於て見るが如き競争をなし遂に妥協に至らなかつたといふことは少

し變のやうでありまするけれども、國を建てた歴史を考へて見ますると、當然でありまして、米國なるものは英國に居ることの嫌なものが、西半球に行き遂に英本國に弓を引いて國を造つたのでありますから、英、米兩國といふものは今後に於きまして、融和するといふことは、甚だ困難なのであります。それ故に今後何年であるか、何十年であるか知りませんが英米兩國の競争といふことが盛んに起るでありませう。さうしてこの競争の結果は前に述べました情勢から考へて見ますると、どうも米國の方が競争に勝つ公算が多いのであります。果してさうなりますれば、世界に於いて残れる、米國と、日本が競争をしなければならぬ、今兩國の狀態を比較研究して見ますと、吾々亦大いに考へねばならぬのであります。

凡そ國力の比較といふことは、第一に國民精神であります、第二に經濟力であります。第三には武力

であります。今兩國を比較して見ますと、最も差の多いものは経済力であります。今其の一例を申し上げますと、名古屋等に於きましても、近來最も澤山入つて来る所の自動車の数は、米國に於ては四人に一臺といふ割合になつてをります。この名古屋には七十萬人あるとしまして、十七萬五千ありましたなれば、米國に匹敵する事になります。現在あるよりは極めて大なる數が無ければなりません。それから向ふで一番大きな自動車製造所は我國にも澤山使はれてゐる所のフォード會社であります。平均一日に三千臺を造つて居る。又向ふで一番大きな造船所はフライデルフイヤ近傍のホーグ、アイルランドの造船所でありますが、一萬噸以上の船を造り得るドックが七十五臺も併んであります。もう一ついふて見ますと、一番大なる屠獸所は市俄古にあります。一日平均牛千匹、豚三千匹を殺してをります。見て居る間に革を剥がれて繻詰になつて會社の構内から

汽車にて輸出されて居ります。是等の數字を以て見ましても、如何に産業が發達してゐるかといふことがお判りになるだらうと思ふのであります。私は今朝からこの名古屋の街を拜見しまして非常に喜んでをる。それは何かといひますと第一に、新市街の設備が大規模に出来てをりまして、東京邊の復興とは比較にならぬ程雄大に出来て居るのに感服しました。米國人が世界第一といひまするならば、この名古屋の市區改正は世界第一であると、御誇りになつても敢て恥しくないと思ふ、私の目を驚かしたのであります。(拍手)本朝も大池町から鶴舞公園の方に自動車を駆つて見ますと、恰も巴里のシャンゼリゼー街の光景と髣髴たるものがあります。成程建築物は左様にいふとはいへませんが、この街の幅といひ街の大体の規模と云ひ巴里の大道路と決して遜色のないものであります。(拍手)これから諸君の御努力に依つて向ふの建築物に譲らないものを造るとい

ふことにあるのであります。又東京の日比谷の公園の如き實にコセ／＼して居り、平生から氣に入らないのであります。こちらの鶴舞公園の如きは歐米のものに比し遜色はないと観するのであります。(拍手)然し米國の経済的實力は中々優れて居る點が澤山ありますから大に奮發せねばならぬのであります。

我國の経済力發展の爲めには色々な方法がありまして、只今政府が滿蒙問題に就いて力を注いでゐるのも其の一端であります。又過日來日露協會が西比利方面に於て水田開發のことを彼等と協定してゐるのも其の一端であります。斯くの如く色々な方面に向つて努力してをります。要するに我國は面積小に而かも資源に乏しくありますから之れを補ふ方法を講ずるのみならず、國民の力量を最高度に發揮し彼等に遜色の無い状態にせねばなりません。武力に至りましては日本は立國の當初より武を以て立つて居りますが七百年前より更に練り上げたの

であります。殊に當地方よりは幾多の武將が出て一層の鍛錬を加へられて居りますから世界何れの國民にも劣る事はないと信じます。又斯くあつては我國立國の精神を没却するものと言はなければならぬのであります。

我が國に於て、最も卓越せるものは國民精神である事は疑なき所であります。私は歐羅巴に参りましても、亞米利加に参りましても何れの國民を問はず、日本帝國に對して最も恐れを抱き、最も賞讃をしてゐる所は我國の國体であります。どうして日本人が一、皇室を中心とし、二千五百有餘年團結して活動をなし文化の向上に努めたかと云ふ事は彼等に理解出来ない所の點であると共に賞讃措かざる所でもあります。彼等は日本は國も小さい、産業も知れたものである、海軍の噸數も必ずしも優勢でない、ホテルの設備も不充分であるといふやうなことを考へてをりますけれども、日本帝國を恐れつゝあるこ

とは要するに國民の精神、然も皇室を中心として三千五百有餘年活動して居る所の團結力が恐いのであります。世界の歴史は數千年に亘つてをりまするが斯くの如く比類ない所の歴史は外に無いのであります。私は常に外人に「日本に於ては富士山、日光、瀬戸内海何れも見物の價値はあるが、二千五百有餘年間一皇室を中心として世界の文化に向つて努力して居るものは世界何處にあるか、是非日本に於て此點を研究せよ」といつてをりました。何處の國のもでもこの點に於ては決して一言もない。吾々は此の世界に比類ない所の、立派な國體を持つて、世界の諸國民に對立して活動すると云ふ覺悟をば如何なる場合に於ても帝國民は決して忘れてはならぬのであります。私の言はんとする最も重要な點であるのであります。

日蓮聖人の聖語中「我は日本の眼目とならん、我は日本の柱とならん」といふことがあります。吾々

日本人は此の聖語と同様に「日本國民は世界の眼目とならねばならぬ、日本國民は世界の柱とならねばならぬ」といふ大精神を以つて列國民の競争場裡に當らなければならぬ、尙吾々日本人は各日本の柱となり、日本の眼目となるとの大精神を以て國民の義務を盡さなければならぬのであります。吾々は歐米各國民が、文明の没落に瀕して居ると云ふが如き方面は暫く是れを見ることなく、寧ろ彼等は努力してゐるものと考へて我が國力の増進を圖り世界に於ける最優等の國民たるの實を發揮しなければならぬと深く信するのであります。實に是れが帝國民の世界に於ける大使命であります。

永らくの間靜聽を煩しましたことを深く感謝致します。(拍手)

(完)

大僧正 本多日生現下題字  
國柱會總裁 田中智學先生序文  
頭本法華宗管長 井村日威親下序文

殉教第二の日蓮

三六版美裝二百八頁  
定價一冊金七十五錢  
(送本料金八錢)

本書は顯本法華宗開山日什大正師、不惜身命日經上人並に日仁、日淨等の殉教史譚にして、その詳細をつくし會つて世に現はれざる史實譚であり、その面白きことは講談よりも優れり。本多日生大僧正書簡に「近著第二の日蓮出來早速御送り被下難有存候、不取敢大拜見御努力感謝の至に候、本宗の爲確かに大切の出版と存深く敬意を表し候云々」田中智學先生序文に「什師公明、經師の剛毅、則て以て宗徒の氣骨と爲すべし……」また井村管長の序に云く「己に爲さるべくして爲されざりし史傳今君に依つて爲さる、余の悦び何物か是に過ぎん。一讀するに行文流麗考證的確、聖者の面影眼前に彷彿し、殉教の跡躍如として思はず漸汗瀧の如し云々」以て内容の一斑を知るべく、日蓮主義者たる者一讀すべき好著。

發行所

京都市東區三條上ル  
編輯口座大阪一三〇六五番

平樂寺書店

取次所

千葉縣長生郡二宮本郷村  
編輯口座東京三三三三三番

東文社

文學士 中川日史 著

體系的法華經概觀 下卷

目次

- 第三篇 本門
- 第八章 本門の大綱
- 第九章 一經の梗概
- 第四篇 結論
- 第十章 大藏全典の起盡と法華經
- 第十一章 要文の解釋

定價 金貳圓八十錢

發行所

東京市神田區神保町貳

館

賣捌所

東京 東京堂  
大阪 寶文館

社寺建築 及 臺灣檜材の安價提供  
設計監督

(三年以上水蓄乾燥材)

當所は社寺建築改善の目的を以て臺灣總督府及内務、文部兩省の了解の下に臺灣檜材の安價提供及工事の設計又は監督の御依頼に應じ可申候間工事の大小に拘らず左記御便宜の個所へ御相談被下度候

追て設計規程並に目安表又は臺灣檜木質見本等御入用の向は御申越次第呈上仕候

(充分なる水蓄乾燥をなしたる檜材最も優良なるも水蓄不  
充分なる檜材は干割狂ひ等の缺陷多きものであります)

東京市四谷區霞ヶ岡町十六番地

(明治神宮外苑内日本青年館正門前)

社 寺 工 務 所

(電話青山六〇二八番)

神奈川縣 鶴見町

社 寺 工 務 所 鶴 見 支 所

福岡市外堅箱町馬出松原

社 寺 工 務 所 福 岡 支 所

(電話二二三〇番)

大阪市西區市岡町七十九番地

社 寺 工 務 所 大 阪 支 所

(電話西三二二四番)

臺灣檜材の特點

- 一、耐久防蟻
- 二、蟻害絶無
- 三、香氣清楚
- 四、木質堅緻
- 五、理整然木
- 六、水高染色

目 次

菩薩行に就て.....	本 多 日 生
社會改造の計畫圖.....	村 田 直 京
肺結核治療の秘訣.....	奥 田 史 郎
聖訓摘要.....	本 多 日 生
歡普賢經要譯.....	國 友 日 斌
外面的と内面的の生活.....	田 久 保 本 誓
猿龜物語.....	長 谷 川 義 一
南洋だより.....	田 中 宣 正
記事報導.....	

第三十三三年三月號

統 一

不許複製

昭和三年一月廿四日印刷納本  
昭和三年二月一日發行

(第三百九十五號)

統一廣告料			
表紙	一頁	金貳拾	送料五厘
裏紙	一頁	金壹圓貳拾錢	送料共
一頁	拾五	金貳圓貳拾錢	送料共
一頁	九	金貳圓貳拾錢	送料共
一頁	五	金貳圓貳拾錢	送料共
一頁	四	金貳圓貳拾錢	送料共
一頁	三	金貳圓貳拾錢	送料共
一頁	二	金貳圓貳拾錢	送料共
一頁	一	金貳圓貳拾錢	送料共

統一定價	
一冊	金貳拾錢
半冊	金壹圓貳拾錢
一冊	金貳圓貳拾錢
一冊	金貳圓貳拾錢
一冊	金貳圓貳拾錢
一冊	金貳圓貳拾錢
一冊	金貳圓貳拾錢
一冊	金貳圓貳拾錢
一冊	金貳圓貳拾錢

東京府在原郡品川町南品川四百十二番地

編輯兼 國友日斌

發行人 鈴木日雄

印刷所 名古屋千種町字五反田五二番地

東京府在原郡品川町南品川四百十二番地

發行所 統一發行所

名古屋東區千種町字五反田五二番地

編輯所 統一編輯局

名古屋東區田代町字城山七十七番地

電話東京五一〇七一番

電話名古屋一〇八一九番